

62 脚注

このように観察者が対象化されず背景化した認知形式(右側)をSモードと呼ぶことにする。これは、Subjective (主観的)、Situating (状況的)、Self-centered (自己中心的)^[1]の意味で使用しており、言語人類学における自己中心参照枠 (egocentric frame of reference: 井上, 1998 など) と等価の概念と考えられる。

^[1] 乳児の認知は自己中心参照枠に基づいており、その後、1歳前後までに環境中心参照枠が獲得されるとする研究に Acredolo (1978)、Bower (1979) などがあるが、これに関しては反論もあり(例えば杉村, 2009)、今後、議論の余地がある。